

電気ストーブを安全に使いましょう！

◆電気火災の実態

寒さ厳しく暖房器具が手放せない季節ですが、このような中、電気製品やコードなどから出火する電気火災が毎年1,000件前後発生しています。全火災に対して、電気火災の占める割合は、平成18年の18%から平成27年の24%にまで増加しています。

この電気火災の中で、火災件数、死者数ともに最も多く発生しているのは電気ストーブで、ここ10年の平均では毎年約80件発生し、8人前後の方がお亡くなりになっています。

◆電気ストーブ火災の事例・特徴

<事例1> 平成26年2月 6時頃 一人暮らし 建物全焼 死者女性1人(76歳)
住宅1階居室内で、電気ストーブをつけたまま就寝してしまい、掛け布団が接触し出火、火傷により死亡しました。








<事例2> 平成26年3月 19時頃 一人暮らし 建物部分焼 死者女性1名(85歳)
マンションの居室内で、電気ストーブのガードが壊れ、取外した状態で体を温めていたところ、着衣に接触し出火、全身が焼かれ死亡しました。



◆電気ストーブ火災から身を守るためのチェック項目

安全チェック

	外出・寝る前には必ず消す。	<input checked="" type="checkbox"/>
	燃えやすい物は近くには置かない。	<input checked="" type="checkbox"/>
	ストーブの上に洗濯物を干さない。	<input checked="" type="checkbox"/>
	使わないときは電源プラグをコンセントから抜く。	<input checked="" type="checkbox"/>
	電源プラグやコードが傷んでいたら使用しない。	<input checked="" type="checkbox"/>

◆その他有効な対策

- ・火災を早期に発見するために、住宅用火災警報器は、全ての居室、台所、階段に設置しましょう。
- ・燃え広がりを抑えるために、寝具類やエプロン、カーテンなどは、防災品にしましょう。



(防災製品貼付のラベル)